

緑のセンターだより

No.211

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

発行: 令和6年12月1日

講習会のご案内

(講習会の受付は前月の20日から、20日が休館日の場合は、前日の19日から)

講習会の案内は、広報旭川市民「あさひばし」に掲載します

「コキアでほうきを作ろう」

とき 令和6年12月1日(日) 午後1時00分～3時00分 定員10名 参加費800円
講師 緑のセンター職員(フラワーマスター)

「麻ひもで編むプランターハンガー作り講座」

とき 令和6年12月15日(日) 午後1時00分～3時00分 定員5名 参加費500円
講師 緑のセンター職員(フラワーマスター)

「麻ひもで編むプランターハンガー作り講座」

とき 令和7年1月15日(水) 午後1時00分～3時00分 定員5名 参加費500円
講師 緑のセンター職員(フラワーマスター)

※講座の受付は、12月20日(金) 午前9時～

「果樹の剪定と栽培管理」～リンゴ、サクランボ、プラムほか～

とき 令和7年2月9日(日) 午後1時00分～3時00分 定員40名 参加費 無料
講師 ふじくらますも果樹園 代表 増茂 聡さん

※講座の受付は、令和7年1月19日(日) 午前9時～

「家庭菜園の土作り 基礎講座」

とき 令和7年2月16日(日) 午後1時00分～3時00分 定員20名 参加費 無料
講師 緑のセンター相談員

※講座の受付は、令和7年1月19日(日) 午前9時～

「神楽岡公園 冬の自然観察会」～冬の園内を探索しよう～

とき 令和7年2月23日(日・祝) 午前10時00分～12時00分 定員15名 参加費 無料
講師 森ん歩の会 阿久津弘明さん、佐藤 まゆみさん

※講座の受付は、令和7年1月19日(日) 午前9時～

展 示 会

「神楽岡公園の四季写真展」 令和6年12月1日(日)～12月27日(金) 作品提供:板垣 吉春さん

「神楽岡公園の自然写真展」 令和7年 1月7日(火)～ 2月28日(金) 作品提供:阿久津 弘明さん

【休館日のお知らせ】

1 1月～3月は、毎週月曜日が休館日です。(月曜日祝日の場合は翌日)



12月の園芸作業

1 鉢花・草花・球根類

- 冬は水のやり過ぎに注意しましょう。
根鉢が湿ったままでは、寒さで根が傷み、枯死する原因になってしまいます。水やりを控えて乾かし気味に管理しましょう。
- シクラメンなどの鉢花はなるべく低い温度(10～15℃)で管理すると花を長く楽しめます。日光に十分当てて、水は鉢土の表面が乾いたらたっぷり与えます。室内が極端に乾燥する場合は、ときどき霧吹きすると株が疲れません。咲き終わった花柄はこまめに取り除きましょう。
- 一年草は寒さの厳しい夜間は、緩衝材などで鉢を包み、昼間は緩衝材をはずして葉をしっかりと日光に当てます。
- 寒い日の水やりには汲み置いた水を使いましょう。できるだけ暖かい日の日中に水やりをしましょう。

2 庭木・果樹類

- 落葉樹の剪定は12月～3月上旬が適期です。冬は葉を落としているため、枝ぶりがはっきり見え、切るべき枝がわかりやすくなっています。木が眠っている間に不要枝(ひこばえ、逆さ枝、絡み枝、平行枝、徒長枝等)を切り、樹形を整えましょう。
- 寒さに弱い西洋シャクナゲ、ポタン、バラなどのこも囲いは早めに行いましょう。

3 観葉植物類

- 暖房している室内は空気が乾燥しています。環境の変化を和らげるため、茎、葉に水を霧吹きすると良いでしょう。

4 多肉植物・サボテン類

- 多肉植物の冬型種(アエオニウム、リトーフス、アルファ、コフィツム等)は成長のピークを迎えますが、寒さに強いわけではなく、5℃以上で適温は15～20℃で管理します。水やりは月に1回程度で霧吹きするようにしましょう。



1月の園芸作業

1 鉢花・草花・球根類

- クンシランは葉の間から蕾がでてくるまでは5℃もあれば十分です。蕾が見えたら暖かいところに移します。
- 寒い部屋で管理したアザレアは10～15℃の部屋に移すと開花に向かいます。
- セントポーリアなど湿度を特に必要とするものは、水やりを3～4日に1回、室温と同じ温度の水を与えます。肥料は2000倍程度に薄めた液体肥料を2週間に1回ほど施すようにします。
- 冬の室内園芸では温度管理のほか、光量の不足を避けることと、空中湿度を保つことが大切となります。

2 庭木・果樹類

- 樹幹や枝に積もった雪は払い落とします。
- ツバキ、サザンカは玄関など5℃程度のごく寒い場所で管理すると開花します。
- ピラカンサ、センリョウなども5℃程度の寒い部屋で管理します。

3 観葉植物類

- 多くの種類の耐寒温度は10℃前後で、これ以下にならないように管理しましょう。
- 5℃まで生育可能な種類として、パキラ、モンステラ、ストレッチアなどがあります。
- 0℃まで生育可能な種類として、シェフレア、チュピタンサスなどがあります。
- 冬は土の表面が白く乾いてから2～3日後に水を与えるようにしましょう。

4 多肉植物・サボテン類

- シャコバサボテンの花が終わった株は、最低5℃位の明るい部屋で、乾燥気味に管理しましょう。
- アテニウム(砂漠のバラ)クラッスラ属(カネナリキ)、アロエなどは窓辺で日光に十分に当てて、水やりは控えましょう。

〈我が家の庭づくり〉 初冬編 低木類の冬囲い

《紅葉も終わり落葉樹の葉が落ちだすこれからの時期が冬囲いの適期になります》

・冬囲いが必要な理由は、①寒さから庭木を守る。②雪と風から守る③雪での枝折れや低木が押しつぶされてしまうを防ぐ(初心者の方は安価で取り回しが簡単なうえホームセンターで手に入る冬囲いネット・ハウスバンドや麻ひもがおすすめです。)

1. 縄・ひも巻き

- ・ノリウツギなどの枝に弾力性のある物は、ひも巻きするだけで大丈夫。
- ・積雪により枝折れが心配な物は部分的なひも巻きで雪の重みから守ってあげましょう。(枝折れしない様に強剪定しておくで作業の軽減になります)

2. ネット・こも巻き

- ・ブルーベリーなどの枝が硬く細かい物はネット巻きすることで、木全体を雪の重みや寒風から守ってくれます。(ある程度落葉してから作業しないとネット内が蒸れて冬芽が腐敗し、芽吹き時にダメージを与えるので要注意)

3. 竹囲い(三ツ又しぼり)

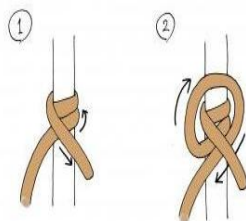
- ・ツツジなどの中低木の庭木にする冬囲いで、作業方法は樹木を中心に竹を三角形に地面にさし、先端を縄で止めて、地面と竹の先端の間も2~3ヶ所、縄を巻き上げます。庭木の大きさによって竹は3本以上使用します。

4. 地面に寝かせる

- ・バラやアジサイなど品種によって耐寒性の劣る物は、地面に寝かせます。



ハウス(リニア)バンド



ロープワーク(男結び)



3本竹で三又しぼり

今年、特に問い合わせの多かった キュウリ・シャクヤクのうどんこ病

うどんこ病の原因は、土や落ち葉の中にある糸状菌と呼ばれるカビです。目に見えないほどのカビが、風に舞い上げられて植物につき、やがて増殖して病気になります。糸状菌は比較的高温で乾燥している条件を好むので、雨が少なく日照時間の長い乾燥した冷夏・昼夜の温度差が大きい時に発生しやすくなります。また、うどんこ病を発症させる病原菌には 260 種ほどもあり、植物によってそれぞれ原因の病原菌も異なることから、作物の種類をまたいで感染が広がることは殆どありません。

主に発生しやすい植物は、野菜類(キュウリ・トマト・カボチャ・イチゴなど)、草花・樹木類(キク・バラ・ジニア・モミジ・シャクヤクなど)、果樹類(リンゴ・ブルーベリー・ブドウなど)ですが、多肉植物にも発生します。

うどんこ病・灰色かび病の特効薬を紹介します。⇒商品名「カリグリーン」の主成分(炭酸水素カリウム)は食品・医薬品にも使用されており、人畜に安全性の高い薬剤です。残効性が短いので5~7日間隔で2~3回防除します。カリ肥料としても登録を受けています。



キュウリ



シャクヤク



トマト



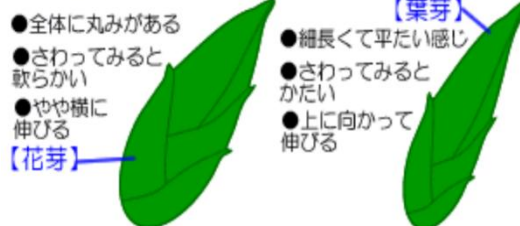
シンビジウムの花を楽しむ

シンビジウムは、東南アジアに自生する原種を交雑育種して生まれた洋ランです。株の根元には丸く大きくふくらんだ「バルブ」と呼ばれる茎の変形した部分がありますが、ここに養分や水分をためて生育しています。2～3年に一回 植え替えを行い、軟らかい日ざしに当てるようにすればよく育ち、花を毎年咲かせます。葉は品種によって、直立したり・垂れたりとはさまざまですが、近年は下向きに垂れて花を咲かす「下垂性」の品種も目に付くようになりました。

「葉ばかり立派でシンビジウムの花が咲きません ???」という相談を当センターで受けることがあります。その原因は、① バルブ(水分や養分を蓄えている部分)の生育不良。② 日光不足。③ 水やり不足。④ 鉢サイズが小さいなど、管理上の問題が多いようです。以下の花を咲かせる栽培ポイントに留意してください。

- ① **芽数を制限する**・・・開花後のバルブには根元に沢山の芽が出ますが、その芽を放置していると葉ばかりになって花は咲かなくなります。原則、1バルブ一芽になるように芽欠きを繰り返して、結果的に残した一芽(バルブ)に養分を集中させることで、次年度の花芽を大きく生長させ、花数も増加させることができます。
- ② **生育期に肥料を与える**・・・4月下旬から9月上旬までの生育期には2,000倍に薄めた液体肥料を水代わりに与えます。これとは別に油粕などの置き肥を5月下旬～8月末まで月一回 鉢の縁に施し、バルブを充実させます。それ以外の時期は、しっかりと肥料が切れるように常温水のみを給水し、メリハリをつけながら花芽を充実させます。
- ③ **日光にしっかり当てることが大切**・・・風通しと明るい環境を好むので6月～9月上旬は屋外で育て、外気温が10℃以下になる頃には室内に取り込んで育てます。(秋～冬期間は最低温度7℃以上を確保する) また、夏の高温や強光は苦手なので、日差しの強い時期には遮光ネットなどで保護すると良いでしょう。

花芽と葉芽の見分け方



展示室の植物 (117)

キンシャチ

学名: Echinocactus grusonii サボテン科 エキノカクタス属



金鯪は本来、球形に生長して直径が1m以上にも育つことから「サボテンの王様」と呼ばれる多肉植物です。自生地はメキシコの火山岩からなる日当たりの良い傾斜地ですが、ダム建設によって自生地のほとんどが湖底に沈んでしまい、自然界ではごく僅かにしか生き残っていないとされている「絶滅危惧種」です。

開花は直径が40cm以上に生長した個体に限る。とのことで順調に育っても20年以上かかりますが、旭川の室内環境では絶対的な光量不足から間延びしてしまい、花を見るのは困難かもしれません。花言葉は見た目のゴージャスさとは異なり「儚い夢」・「憂い」です。